

2019年4月10日

第19回フォローアップ会議に向けた意見

小林 喜光

- ① 一口に投資家といっても、投資先の中長期的な企業価値の向上を志向する投資家もいれば、徹底的に短期志向の投資家もいる。同時に、日本企業が有する投資家との対話能力や意識には極めてバラつきが大きい。集团的エンゲージメントやエスカレーションについて検討する際は、このような両者玉石混交の実態を十分に踏まえる必要があると考える。
- ② 我が国が新陳代謝の促進を通じた経済成長を志向するならば、日本の風土における円滑な企業統合の手段(便法)としての一定期間を想定した上場子会社と、そのような意義の認められない上場子会社とで、扱いになんらかのメリハリをつけられないか。
- ③ 我が国におけるステュワードシップ向上およびコーポレートガバナンス改革は、諸課題をひとつずつアジェンダ化しながら漸進的に進めていくしかないが、こういった時間差に付け入るかたちで利益を上げようとする投資家もおり、日本市場は「狙われている」ともいえる。事務局には、アジェンダ上程のやり方も含め、「守るべきは守りつつ」着実に進めるという高度な運営をお願いしたい。

以上